

⑤ 水彩画には、絵の具を多めの水でとき、下の色が透ける描き方の（透明描法）と、絵の具を少なめの水でとき、下の色を隠す描き方の（不透明描法）がある。

絵の具はあらかじめ使う色は（パレット）の上に出しておく、絵筆は、変化のある糸線で描く場合には（丸筆）を、広い面をぬる場合には（平筆）を用いるのが適している。（筆洗）は、まめに水を替えたり、色によって使う部分を分けたりするなどの工夫をするとよい。

⑥ 次の各々の、水彩画の技法や表現について、あてはまるものには○、あてはまらないものには×を答えなさい。

① 絵の具を少なめの水でといて用いる技法では、筆のタッチを生かした表現ができる。（○）

② 絵の具を多めの水でといて用いる技法では、明るくしたい部分に最も色を重ねるようにする。（×）

③ 水彩画は、絵の具を多く水の量を調整することで、明るさや透明感を表現できる。（○）

④ 水彩画は、にじみやぼかしの効果を生かした表現にはあまりふさわしくない。（×）